

Message

近藤克幸先生

秋田大学医学部附属病院
教授 医療情報部長

《プロフィール》 1990年、秋田大学卒業の後、
同心臓血管外科入局。心臓血管医として臨床の研
鑽を積んだのち2002年より現職。研究分野は人間
医工学から社会・安全システム科学、外科系臨床医学
など多岐にわたる。2007年、研究論文として「医
療情報システムとICタグの活用」を発表。早期よ
り電子タグを用いた臨床を実施、医療過誤防止へ
向けた取り組みを続ける。



電子タグがこれからの医療を、より安全・安心に変えてゆきます。

医療現場の負担を軽減しながら、
安全性の高い管理システムを実現。

安全管理のチェックのために仕事が増えてスタッフが
疲弊し、うっかりミスが増えたというような問題もありま
す。電子化が推進される中で、ユーザーインターフェースに
おけるユーザビリティがおきざりにされてきたからです。
例えばバーコードの読み取りに時間を費やしていること
も、その一例。ストレスのない簡略な仕組みがスタッフの
負担を軽減します。

電子タグなら、バーコードでは難しい場面でも確実に読
み取れます。無線で通信しますから、血液などで汚れてい
ても問題ありません。点滴のソフトバッグなどが不規則に
曲がっている状態でも大丈夫。金属以外なら遮蔽物があっ
ても対応でき、短時間で正確に読み取ることができます。
電子タグを用いたシステムはスタッフの負担を軽減し、確
実に情報を収集・補足して安全管理ができるという観点か
ら、とても優れたシステムといえます。

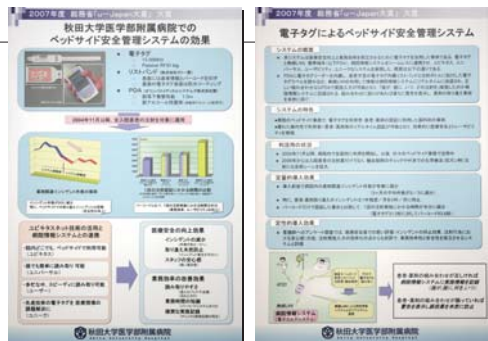
さらに医薬品の生産段階から電子タグがついていれば、
製造から与薬に至るまでの個品管理が可能となります。全
てのプロセスが確実に記録されますから、医療の透明性が

高まります。また電子タグの購入コストや貼りつける
手間、作業ミスなどのリスクへの対応といった現場の
負担も確実に減ります。もちろん薬剤部の在庫管理など
上流の管理にも役立つのです。

業務の効率化が、患者さんとの
コミュニケーション向上にもつながる。

当院では電子タグ導入後、うっかりミスの報告は確実に
減少しました。「万一見落としていたら」というスタッフ
の精神的負担が軽減され、その安心感から「バーコード
に戻ることは考えられない」という声を聞いています。
電子タグは、ユビキタスなかたちで自然に受け入れられ
て、現場のスタッフが良いものだ実感しているのです。

バーコードでは60秒かかっていた注射認証行為の時間
が、電子タグでは半分の30秒になりました。誰もが安定
して短時間でチェックできることもデータからわかって
います。本来、安全管理の電子化システムは患者さんの
ためのものです。この30秒の差を患者さんとのコミュニ
ケーションにあてることができるのは、医療の質を高め
るという意味で、たいへん価値あることだと思います。



■秋田大学医学部附属病院での取り組み

秋田大学医学部附属病院では、2004年11月から電子タグを活用した
ベッドサイド安全管理システムを開発、導入されています。PDAを用
いて、患者のリストバンドと注射ボトル、看護師のネームカードに貼
付された電子タグをベッドサイドで認識。無線LANを介して病院情
報システムに送信します。患者と医薬品の組み合わせが正しければ、
いつ、誰が、誰に、どの注射を実施したのかが記録され、間違っ
た際には警告をPDAに表示することで医薬品の取り違え事故を未然に防
止しています。同システムは、総務省「u-Japan大賞」の「2007年度
大賞」を受賞するなど、社会的にも注目されています。

一般社団法人
日本血液製剤機構

東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル7階

電子タグ貼付のご案内

トレーサビリティへの活用、院内業務のさらなる効率化に貢献するため、
2013年4月包装品より、電子タグを貼付した製品を順次出荷します。



医療のさらなる安心・安全のために、電子タグにできること

- いつ、誰が、誰に、何を、どれだけ… 1対1の与薬履歴管理
- 生産段階から与薬までの個品管理
- 医療業務の効率化による負担軽減
- 医療現場で発生する様々なヒューマンエラーの減少

電子タグには、メモリー機能があるICチップとアンテナが埋め込まれており、リーダー・ライターを
利用して、個々の製剤のシリアルナンバーの識別やデータの読み書きが非接触でできます。

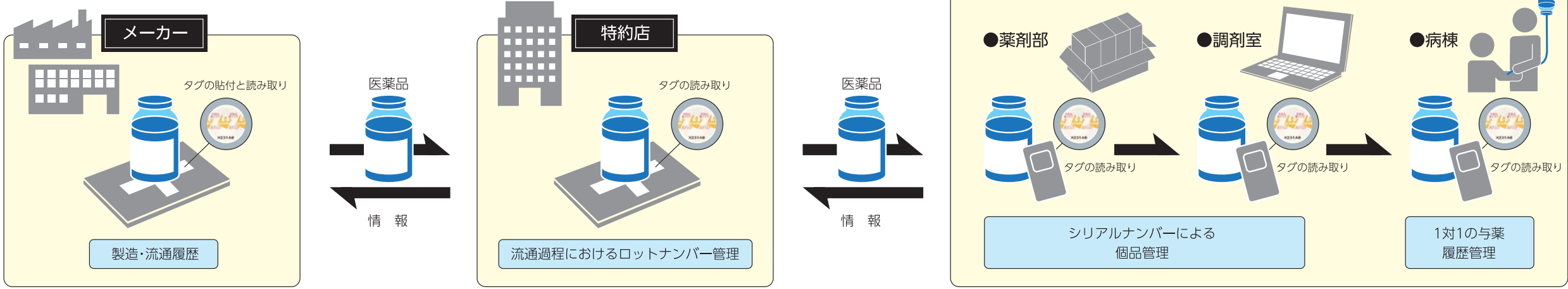
電子タグを貼付した製剤が、製造から与薬まで正確なトレーサビリティを実現。シリアルナンバーによる個品管理で、安全性の向上と業務の効率化を促します。

工場生産から流過程におけるロットナンバー管理と病院内におけるシリアルナンバー管理をシームレスに実現。医薬品のトレーサビリティを確実に検証・管理するシステムが構築可能となります。いつ、誰が、誰に、何を、どれだけ、といった1:1の与薬履歴管理もより正確に円滑に行えるようになります。



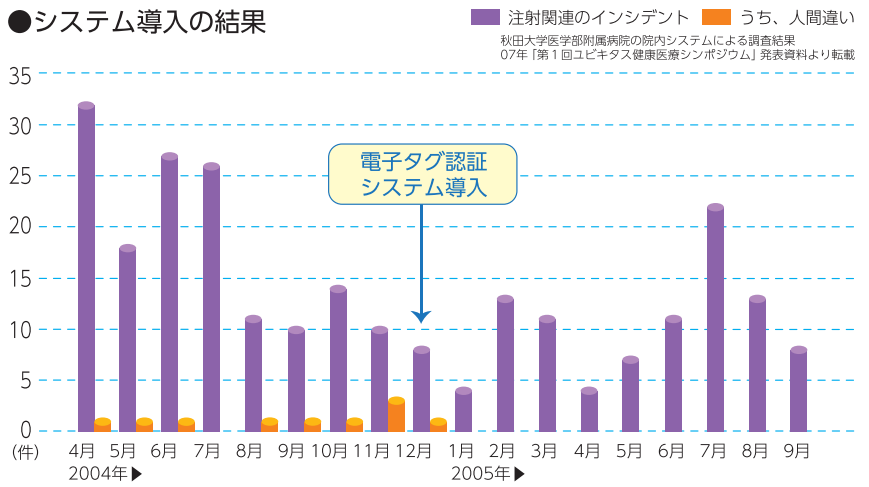
- 〈出荷時に電子タグに記録されている情報〉
- シリアルナンバー
 - ロットナンバー
 - GS-1(調剤包装単位)
 - 有効期限
 - JANコード

電子タグの導入で、医薬品の情報管理が大きく変わります。



与薬間違いなどの医療過誤を防止。リスクマネジメントの要となります。

電子タグによる正確なトレーサビリティの実現とベッドサイド認証システムの構築により、患者の取り違えや与薬誤り、また記録忘れなどヒューマンエラーを防止します。薬剤管理と与薬管理を院内情報システムで結ぶことで一元管理を実現し、より確実なリスクマネジメントの要として機能します。

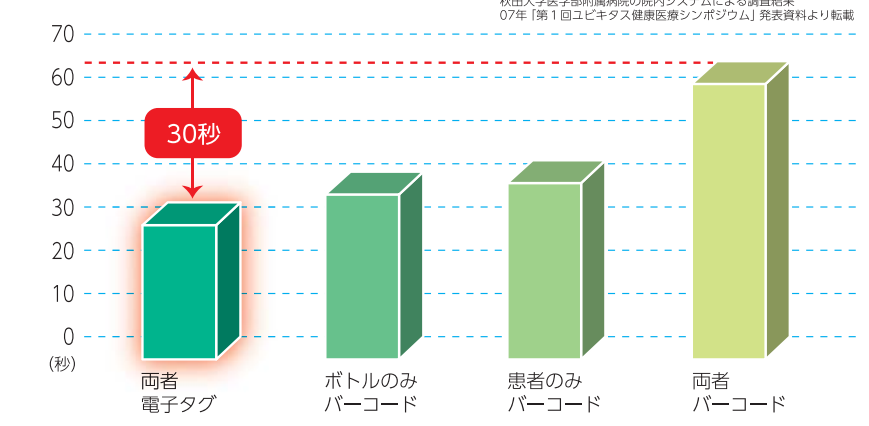


調剤行為や与薬における業務の効率化などスタッフの負担を軽減します。

調剤行為や与薬などの迅速化と同時に正確な記録も可能となります。業務の効率化を促進し、本来業務に最善を尽くすことができます。また院内情報システムとのスムーズな連携も可能となり、スタッフの安心感の向上も期待できます。

●注射認証行為全体の時間測定結果

※認証対象の注射薬を選択→ボトル読み取り→患者リストバンド読み取り→認証終了までのトータルの時間



※個人情報の取り扱いについては、平成16年6月8日、総務省・経済産業省発出の『電子タグに関するプライバシーの保護ガイドライン』を参照ください。